

すまいるたん



汐入

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300



ジョイフル三ノ輪商店街の「ナガオカ」の五十嵐春雄さん（大正14〜平成19）の遺稿集「ジョイフル三ノ輪今昔物語」平成六年二月より

商店街に関係なき事を述べたが大正二年に定じ軌道株式会社が出来たことによって新開地商店街の基盤が出来た事は「三ノ輪界わい」に述べたが商店街としての組織化はいつ頃か解りませんが判明しているのは大正十三年頃に会長職に遊技場を運営していた伊藤裕明氏、前述の関口梅吉氏、現在の大村パン店の所に居住し和菓子店を運営「金花家」という屋号の今瀧當賀志氏（五班、故今瀧勝氏の祖父 現在廃業）次に當時は乾物店 現在は菓子店を運営している吉田俊夫氏の厳父である吉田嘉一氏、地祇に橋本薬局の橋本常三氏、又昭和十九年には再び今瀧氏が会長に就任、終戦を迎えるのである。その間高梨樹吉氏・松田長次郎氏・名取勝広氏・古川金次郎氏・五十嵐広次氏。御名前を失念したので屋号でお許し願いたい、信濃屋洋品店。武江米店・紅屋呉服店・小島味噌店・松坂屋洋品店・東京堂洋品店等まだまだおったのだろうが、この方々が会長を補佐し戦前の商店街を支えたのであります。

然し、昭和十七年頃より戦火が激しくなり組織化とは名ばかり自然消滅となるのである。この時までは店舗の大小を問わずその内情を、とも角として店主は一國一城の主あるしであり現在のよう大型店があるではなし、せかせかした生活ではなかった。今では死語になつて「旦那」でいられたのである。気の合った者同志で旅行し酒を酌み交わし談笑し大変平和で楽しい時代であった。

戦後は尾林儀一郎氏（大坂屋乾物店）中根章三氏（あみ屋履物店）宮川林太郎氏（ハカリ店）の三氏によって安全会という名で組織化を図るのである。

昭和廿四年より三ノ輪銀座商店街となり尾林儀一郎氏（昭和27年迄）佐藤芳房氏（28〜29年）高梨樹吉氏（30〜34年）井草真氏（昭和35年10月迄）が会長を歴任するのである。昭和35年11月に協同組合を設立、初代会長に松田長次郎氏が就任46年まで会長職（理事長）にあり、その間再開発構想を作成するも志半ばにして御逝去なされるのである。二代目に吉田俊夫氏が就任、吉田氏副理事長時代の48年に振興組合に改組、58年迄理事長を務め、58年より63年迄松田昇氏が63年より五十嵐義夫氏が現在に至る迄辣腕ちからわんを振るわれているのである。ここで特筆すべきはアーケード建設という大事業である。昭和48年5月第十三回通常総会に於いてアーケード建設早期実現を議決するも翌年にはオイルショックによる資材不足・高騰・金融引き締めその他の事情により状況好転まで建設事業の中止を決定する

のである。昭和51年3月理事会に於いてアーケード建設委員承認者全員を承認、吉田理事長（委員長）を柱として九名の副委員長をはじめ各部の一方ならぬ御努力と御尽力によりこの大事業に邁進まいしんするのであります。私も副委員長として広報連絡部長の末席をけがし、パンフレットの作成等の作成を部員の方々の御協力と共に完成。アーケードのある街々を見学、反対者一割弱もあるも着工の運びとなり、53年12月に完成、54年一月十三日晴れて引き渡しの完了を見るのである。反対者の方ともブロックの責任者及び理事の方の並々ならぬ御努力により承認するに至るのである。

考えてみるにその完成には各店の多大なる出費等ご迷惑の面が多々あったと思いますが、然しアーケードがなかったら現在どうなっていたか、ゾーとする思いは私だけであろうか。その完成により新装する店、閉店するもすぐ埋まる等附近に大型店、安売店の進出あるも経営努力によって次の時代への展望も明るさが見えるのである。各お店の繁栄を祈つてやみません。（アーケード及び組合会館の新設については「パンフレット」及び完成までの経過」に詳細に書いてあります。

◇すまいるたんふれあい亭◇
1月30日（日）西市区民事務所ひろば館
午後12時半〜3時 会費百円
歌と体操とお喋りと・・・
お友達ができますよ。99歳の小林まつさんも参加されています。

